信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 教育学部 附属長野小学校

３年１組

ようこそヤギさん　会いたかったよ
～ついに始まった生きものとの暮らし～

ヤギさん来てくれてありがとう

今年度の中核活動で「生きものとの暮らし」に挑戦することに決めた3年１組では、紆余曲折を経てヤギさんを迎えることに決めました。そして10月29日、ついに3年１組にヤギさんが来ました。

朝、「先生、おはようございます。ヤギさんが来る前にほこりが溜まっていたら嫌なので、箒で掃いていいですか」と、いつも気持ちのよい挨拶をしてくれるAさんはそういって教室の掃除を始めていました。すると、誰に言われるでもなく次々と登校して来た子も後に続き掃除をしていました。掃除をしながらも子どもたちは口々に「あー、もう少しで会える。楽しみだなあ」「昨日は楽しみ過ぎてあんまり寝られなかった」と口にしていました。待ち望んだ出会いを最高の形で迎えたい、子どもたちの姿からそんな思いを感じました。

そして、いよいよヤギさんとご対面です。前夜のヤギさんの様子から「怖がっていてなかなかゲージから出てこないかもしれない」と子どもたちに伝えると、「じゃあ丸くなってお迎えしない方がいいね。少し下がった場所でお迎えしよう」とBさんが提案しました。ゲージの扉が開き、本物のヤギさんの姿を目にした子どもたちは「うわーかわいい」と口を揃えて言いました。ここでも大きな声でヤギさんを怖がらせないようにと、嬉しい感情が溢れる中にも、ヤギさんを思いやる子どもたちの姿がありました。けれども、ヤギさんは一向に出てこようとしません。子どもたちが息をのんで待つ時間がしばらく続く中、「ゲージの上部分をはずしてみたらどうかな」という声が挙がりました。そこでゲージの上部分を外すと勢いよくヤギさんが飛び出しました。教室の中を走り回りながら、机の下に潜り、おしっことうんちをして教室隅のヒーターの横に隠れてしまいました。そこからは、エサで引き寄せようとしたり、全員で廊下に出て見守ったりとあの手この手を尽くしましたが、なかなか出てきません。30分ほど待ちましたが、遂に出てくることはなかったため、安全面も考え、抱きかかえて外の小屋に連れて行くことにしました。

外の小屋に入ると今度は隅っこの方で座り込み、こちらに背を向けて座り込みました。子どもたちが呼びかけてみても、警戒しているせいか、耳をピンと立て距離を取ろうとするヤギさんでした。しばらく見守りながら、エサとなるチモシーを小屋の中におきました。

するとお腹が空いていたのか、かごに盛られていたチモシーをあっという間に完食しました。その様子を見ていた子どもたちは一様に安堵の表情を浮かべていました。まだ警戒していたヤギさんですが、柵の外から草や落ち葉を与えていくうちに、徐々に警戒心も薄れてきました。その様子から子どもたちも、かわるがわる小屋に入り、ヤギさんの体に

触れることに挑戦し始めました。初めてヤギさんに触れたCさんは「ヤギさん、あったかいね」と言いながら、ヤギさんを驚かせないように優しく、優しく触れていました。そのCさんの姿は、目の前にある「命」の尊さを感じているようでした。

しばらく小屋の中で過ごしていたヤギさんと子どもたちでしたが、寒さからかヤギさんはずっと震えていました。そのヤギさんの姿を見て、日の当たるところにお散歩で連れ出すことにしました。しかし、これがまた物凄く大変でした。まず、ヤギさんは私たちの連れて行きたい方向に全く行こうとしません。どうやらヤギさんは電車の音が気になったらしく、しきりに線路沿いの方に行こうとしました。走ったり、飛び上がったりと我が道をゆくヤギさんでした。小屋に戻そうにも上手くいかず、小屋から脱走したらどうしようという不安もあり、お散歩がなかなか終わりません。
給食の時間も迫る中、小屋に戻すのは心配だという思いから、再度ゲージに入れて教室に連れていくことにしました。ここでも、お散歩の補助をする子、ゲージを持ってきて再度組み立てる子といったようにヤギさんを思い、行動に移っていく子どもたちの姿がありました。自由に歩き回ったヤギさんでしたが、ゲージの前まで来ると、自らすんなりとゲージに入りました。正直、入りたがらずに苦戦するとみんなが思っていたので、安心しました。

その後は給食、掃除と教室で過ごしました。朝、初めて教室に入った時とは違い、落ち着いた様子を見せるヤギさんでした。子どもたちもヤギさんが気になり、しばしば覗いていましたが、ヤギさんは慣れてきた様子でウトウトしていました。

5時間目は体育でした。体育館で体育の授業でしたが、「ヤギさんも連れて行きたい」という子どもたちの思いから、体育館に連れて行き、体育を見学してもらいました。フロアボールに熱中しながらも、時折ゲージの近くに行き、ヤギさんに話しかけたり、様子を伺ったりする子どもの姿がとても印象的でした。

6時間目は今日の振り返りとヤギさんの名前について考えました。この時間もヤギさんは教室にいて、1組の一員として一緒に授業に参加しました。名前については出会ったばかりなので難しい面もありましたが、子どもたちは名前の意味や、名前に込める願いを真剣に考えていました。いくつか候補が挙がりましたが、もっともっとヤギさんのことを知ってから、ゆっくり、じっくり名前を決めていきたいと思います。

そして下校の前の時間には、この後ヤギさんをどうするかを考えました。選択肢としては、自分たちの作った小屋に入れておくか、ゲージの中に入れておくかの2択でしたが「自分たちが見に来られないから、小屋に入れておくのはまだ怖い」と、子どもたちともう1日ゲージの中で過ごしてもらうことに決めました。帰りの会が終わると、子どもたちはヤギさんのゲージの前に行き、「バイバイ、また明日ね」や「明日来たらすぐ出してあげるからね」と各々ヤギさんにさようならを言って帰っていきました。

生きものとの暮らしをずっと願い、準備をしてきた1組の子どもたち。その子どもたちがヤギさんと出会った記念すべき初日は、ヤギさんずくしの1日でした。帰っていく子どもたちの表情は、やっと出会えた喜びと、明日からも続くヤギさんとの暮らしに対する希望に溢れているようでした。ここから始まるヤギさんとの暮らし、この先にはどのようなことが待っているのでしょうか。期待に胸を膨らませながら、また明日を迎えます。